

戦争と臨床研究

ロシアのウクライナ侵攻開始から3週間あまり、避難先や病院までも砲撃され多くの市民が犠牲になり、

数百万の人々が他国への避難を余儀無くされている、辛いニュースを見る日々が続いています。

ご存じの方も多いと思いますが医学研究の歴史には戦争が大きく関わっています。ナチスドイツの強制収

容所での人体実験、旧日本陸軍731部隊による捕虜を対象とした研究など、戦後明らかにされていき

ました。戦勝国のアメリカでさえマンハッタン計画の一環として人体への放射線の影響の研究がのちに明

るみでています。これら非人道的行為に対する反省を踏まえ、戦後ニュルンベルグ綱領、そしてヘルシ

ンキ宣言へつながり、今日の臨床研究に関わる法規のおおもとなっています。GCP省令、臨床研究

法、人指針など研究内容ごとに法規が決められ、確認すべきこと、守るべきことは多いのですが、大切な

のは「良いことは良い」、「悪いことは悪い」と判断する個々の良心だと思います。

知的好奇心、功名心、人間の欲望は科学や社会の発展の原点ですが、社会で生きていくなかでは他

者への思いやり、相手の気持ちに寄り添った行動が大切だと思います。

朝刊を読みながら自分に何ができるか自問する日々です。

時々、臨床研究にかかわる話題を提供します

沖縄病院臨床研究部　～ 寄り添う探求心 ～